

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		公表日 令和7年3月22日				
放課後等デイサービスのあな						
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	5	0	ワンフロアーの死角のない空間になっており、部屋の中心を扉で仕切れるようになっている。	学年が上がるにつれ、体格も大きくなるので手狭に感じる部分もある。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、 職員の配置数は適切であるか。	5	0	適切な配置数で支援している。	個別に支援する必要がある児童も増えている為、現在の職員配置でプログラムの見直しが必要。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	5	0	1日のプログラムは見て分かるようにホワイトボードに記載。各児童に専用のロッカーを設置。	ロッカーの数が足りなくなってくる為、今後の使い方の検討が必要。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	5	0	物が乱雑に置かれないように、決まった場所に玩具や備品を置いている。毎日の清掃、消毒を行い清潔な環境を保っている。	玩具や備品も増えてきた為、置き方に検討が必要。入れているケースに何が入っているか名前の記載が必要。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	5	0	静かな空間で過ごしたい児童の為に部屋(相談室)がある。	個別の部屋はあるが、環境整備が必要。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	5	0	PDCAサイクルを心がけ、職員会議において課題の検討、業務の見直しを図っている。	今後も課題の共有、業務の見直しに努めていく。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5	0	ホームページで評価、公表を実施している。	今後も保護者からの評価を受け、改善に繋げていく。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5	0	職員会議や日頃の振り返りの場面で職員の意見を聞く。それを業務改善につなげている。	改善出来ていない点も多いので来年度に向けて整理する必要がある。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	0	5	第三者による外部評価を実施出来ていないが、関係機関や保護者の見学を実施する事で意見を聞く機会を設けている。	外部評価を行う必要がある。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	4	1	月に一度の関係機関の講師による研修を実施している。	研修の機会を増やし、職員の専門性の向上に努める必要がある。
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	5	0	ホームページにて支援プログラムを公表している。	保護者の方にも理解して頂けるように努める。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	5	0	アセスメントを実施し、ニーズや課題の分析を行った上で個別支援計画を作成している。	引き続き、具体的な個別支援計画の作成に努める。
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	5	0	ケース会議にて職員間での情報共有を図っている。	今後も定期的な情報共有の場を作っていく。
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	5	0	会議の場にて支援計画の共有を行い、職員がいつでも個別支援計画を確認出来るようにしている。	今後も個別支援計画の共有を職員間で行う。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	5	0	外部機関で実施された検査結果を把握し、日々の支援に活かしている。定期的に保護者との面談を実施し、ニーズや課題の把握をしている。	今後もアセスメントを活用し、個別支援計画の作成に活かす。
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	5	0	ガイドラインに沿った支援内容を踏まえて個別支援計画の作成、必要な項目が設定されている。	今後も必要な項目を設定し、具体的な支援内容を設定していく。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	5	0	職員間で話し合い、それぞれに役割をもって立案している。	今後もプログラムのねらいを職員間で確認しながら立案していく。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	5	0	児童の特性も見極めながら内容を変化させている。また、季節にあった活動を取り入れている。	今後も固定化されないように職員間で話し合いを行う。

関係機関や保護者との連携	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	5	0	児童の特性に応じて個別、集団での活動を個別支援計画に取り入れている。	今後も一人ひとりのニーズや課題を抽出し個別支援計画の作成に努める。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	5	0	事前にその日のプログラムの確認、役割分担を行っている。	今後も職員間での連携を図り支援を実施する。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	5	0	支援終了後にケース記録の記入と共に、その日の振り返りを実施している。	今後も振り返った内容を翌日以降の支援に活かしていく。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	5	0	支援終了後や支援の中で気付いた時に記録を残している。	今後も記録を徹底していく。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	5	0	定期的にモニタリングを実施しており、個別支援計画の見直しを行っている。	今後も定期的なモニタリングを実施していく。
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	5	0	よさこい踊りの実施や地域行事での舞台への出演を通して成功体験を重ね、自己肯定感を高められるように支援している。	学校との連携が今後の課題である。
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	5	0	日々のプログラムの中で自己選択する場面をつくりながら支援している。	
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	5	0	現在は児童発達支援管理責任者が出席している。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	5	0	必要に応じて関係機関との連携を図っている。	関係機関と円滑に連携が取れるように体制を整える。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	5	0	基本的には保護者を通して情報を得ているが、必要に応じて学校との連絡調整を行っている。	今後も学校との連絡調整を行っていく。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	0	5	現在は利用していた機関との情報共有が実施出来ていない。	就学前に利用していた機関と情報共有出来るように努めていく。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	0	5	現在までに情報を提供する場面はなかったが、必要に応じて情報提供を行う。	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	2	3	発達検査や知能検査の報告書を保護者の同意を得て共有している。研修には参加出来ていない。	積極的に研修に参加する必要がある。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	5	0	定期的に開催される地域の行事に積極的に参加している。	今後も地域の行事に参加していく。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	0	5	協議会への参加は出来ていない。	今後は参加出来るように体制を整えていく必要がある。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	5	0	保護者とは連絡ノートや電話、送迎の中で児童の様子について話をする機会を設けている。	今後も保護者と話す機会を設けていく。
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	5	0	月に一度開催される講師による保護者向けの研修に参加してもらえるよう情報提供を行っている。	来年度も開催される為、積極的に参加を促していく。
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	5	0	契約時に書面を見ながら説明している。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	5	0	利用児童本人や保護者の意向を個別支援計画書に記載している。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	5	0	面談の中で個別支援計画の説明を行い同意を得ている。	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	5	0	相談があった際には速やかに対応し、必要に応じて面談を実施している。	

保護者への説明等	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	2	3	保護者会は実施出来ていないが、保護者同士で交流出来る場面は設けている。	利用児童の全保護者が揃う場面が作れていない為、今後の課題となる。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	5	0	苦情受付、担当者は重要事項説明書に記載しており説明も行っている。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	5	0	インスタグラムを活用し、日々の様子を発信している。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	5	0	個人情報に記載された書類等は鍵付きのキャビネットに保管している。	
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	5	0	障害の特性に合わせて、意思の疎通や情報の伝え方に配慮している。	障害の特性について、職員の専門性を向上させる必要がある。
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	3	2	事業所で地域に向けての行事等は実施出来ないが、法人全体での行事に参加する事で地域に開かれた運営に努めている。	
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	5	0	各種マニュアルを策定、職員や保護者等に周知している。また、想定した訓練を実施。	今後は各種研修や訓練実施の回数を増やせるよう努める。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	5	0	定期的に避難訓練の研修を実施している。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	5	0	利用開始前に保護者に確認、フェイスシートに記載して頂いている。	今後も定期的に服薬の有無やてんかんの状況等の確認を行っていく。
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	5	0	食事の提供はしていないが、アレルギーの有無、必要に応じておやつ提供時に配慮をしている。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	5	0	安全計画を作成、定期的に安全管理を実施している。	
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	2	3	感染症や怪我が発生した場合の取り組みについて保護者に説明している。	安全計画についての保護者への周知の徹底が必要。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	5	0	些細な事でもヒヤリハットに記入する体制をとり、振り返りを行っている。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	5	0	虐待防止委員会を設置、職員への内部研修を実施している。	
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	5	0	現在は身体拘束の必要な場面はないが、身体拘束適正化委員会を設置し話し合いの場を設けている。	